

「学習院ネット」を運用してみて

学習院大学計算機センター 城所弘泰 入澤寿美

平成2年9月より通称「学習院ネット」の運用を開始した。その利用状況について集計し、報告する。

「学習院ネット」とは

「学習院ネット」とは計算機センター内のパーソナルコンピュータ（FMR-70）でのみ利用できるパソコン通信である。そこで学習院ネットを説明する前にパソコン通信についてどういうものであるかを触れておく。

パソコン通信とは、パソコンから他のコンピュータへ電話回線を使って接続し、情報のやりとりを行うことである。電話では情報のやりとりは1対1でしかできなかったが、パソコン通信では不特定多数の人々と情報や意見の交換、さらには高度情報化時代の今日、新聞、テレビ、ラジオでは手に入らなかった情報も、即座に入手することができる。パソコン通信には色々なサービスがあるが、主な機能は次のようなものである。

電子メール

特定の個人に対して情報伝達をすることができる。電子メールは通常の手紙に対していくつかのメリットを持っている。まず第一に、通信回線を使っているので即時に送ることができる。また、ID、パスワードを入力しないと手紙を読むことができないので機密性が高い。

リアルタイム会議

不特定多数の人々と同時に会話をすることができる。このとき会議参加者は一室に集まる必要はなく、自分の前にコンピュータが存在すればいい。

電子掲示板

不特定多数の人々へ情報伝達をすることができる。これは街角にある掲示板と同じである。

一般のパソコン通信は上記のようなもののことをいうが、学習院ネットはどこが違うのだろうか。パソコン通信では電話回線を用いて他のコンピュータ（サーバ）と接続して情報のやりとりを行うが、学習院ネットでは電話回線を用いず計算機センター内に張られているLANを利用している。そのため前述したように計算機センター内でしか利用できないという汎用性に欠ける面もあるが、そのかわりヒューマンインターフェースの優れたものになっている。そして機能に関しては電子メール・リアルタイム会議・電子掲示板を3本柱としていて、さらに利用者にとって便利な機能が付加されている。（表1）

表 1 学習院ネットの機能

電子メール	受信 送信 送信（ニックネームを利用した送信） 送信（特定のグループ I D に対して、その全員に送信）*
リアルタイム会議	
電子掲示板	読む 掲示する 掲示物を書き換える 削除する
学習院ネット参加者一覧	
特定の人に直接話しかける	
テキスト編集	

(* 教員のみ利用可)

運用目的

現時点における初等情報処理教育における第一のハードルは、一般の人々にとっては異種文化であるコンピュータにいかに関心をもたせるか、そしてキーボードに慣れさせるかである。最初に“つまらない”，“むずかしい”といった印象をもってしまうと、たとえいかに興味を持っていたとしても挫折してしまうものである。また、パーソナルコンピュータの利用形態としては、科学技術計算からワープロ等アプリケーションソフトの利用、さらにはゲームまで多種多様にあるが、計算機センターにおいて利用はおろか見ることのできなかつたものにパソコン通信がある。そこでコンピュータの利用方法のひとつの形を提示し、体験してもらい、一部の人のためにはコンピュータに対する関心が変わるであろうことを期待して、学習院ネットは運用を開始した。

さらに学習院ネットは“おもちゃ”としてだけでなく、授業での情報伝達のひとつの方法として利用されている。

利用状況

学習院ネットは平成2年9月から運用を開始した。ここでは運用開始から平成3年3月までの利用状況に関して集計、そしてその中から興味ある点について考察してみる。

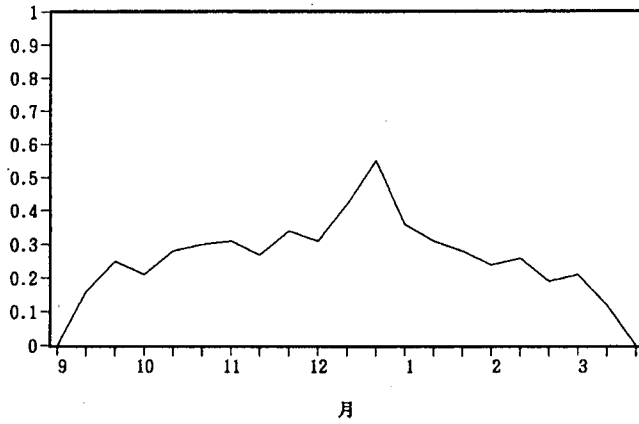


図1 計算機センター利用者に対する学習院ネット利用者の割合

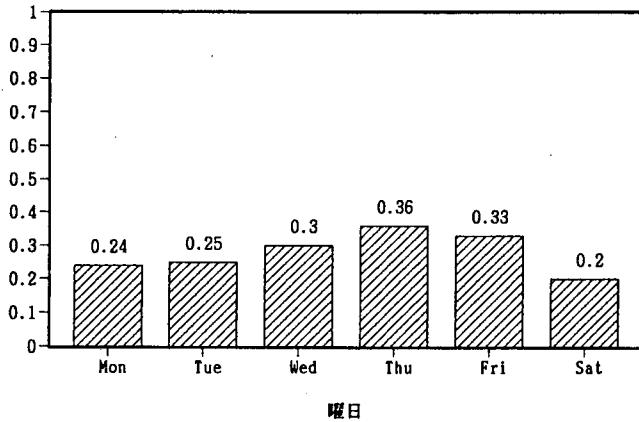


図2 計算機センター利用者に対する学習院ネット利用者の割合

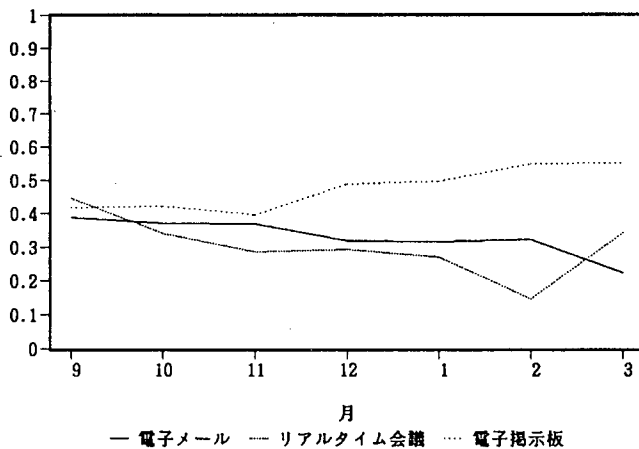


図3 学習院ネット利用者の利用機能

学習院ネット利用割合

計算機センター全利用者に対する学習院ネット利用者の割合を運用開始から月ごとに、あるいは曜日ごとに集計して見てみる(図1, 図2)。

いずれのグラフを見てもわかるように、計算機センター利用者の3割前後の人々に学習院ネットは利用されている。

月ごとにしてみると(図1)、運用開始とともに数多くの人々に利用され、利用者は増加し続けている。そして年末には、学生はレポートもなく暇であったのであろうか、5割を越える利用割合を記録している。年を越してからは1月下旬からの年度末試験のため利用者は減少傾向にあるが、試験中でさえも2割5分前後の利用者がいることには驚かされる。

次に曜日ごとの集計を見てみる(図2)。これを見てみると曜日により格差があることが認められる。木、金曜日が多いのは、学習院ネットを最も推進していた授業(一般教育課目)が4時間あったためであろう。土曜日が少ないのは、週末には暇な学生は計算機センターには来ないで、どこかへ遊びにいっているのであろうか？

学習院ネット利用者の利用機能

学習院ネットには電子メール・リアルタイム会議・電子掲示板の3機能があるが、利用者は主にどの機能を使っていたのであろうか。そこで学習院ネット利用者に対する各機能の利用割合を調べてみる(図3)。

電子メールは学内だけでは実用性の低さから徐々に利用者は減少しているのに対し、電子掲示板は月日とともにデータの質が向上し利用者は増加傾向にある。また、リアルタイム会議の利用者は、さすがに年度末試験の頃は大きく減少している。

学習院ネット利用者の時間分布

学習院ネット利用者の時間分布を曜日ごとに集計してみた。さらに、電子メール・電子掲示板に関して、リアルタイム会議に関しては個別に時間分布を集計した(図4)。

一部の曜日・時間を除いて利用者は平均している。利用者が突出している木、金曜日は前述したように学習院ネットを推進していた授業が計算機センター内の教室であったためである。また、水曜日午後は後述するが、学生による定例会が開かれていたためであろう。

電子メール・電子掲示板の利用者は、学習院ネット利用者の推移とほぼ同じである。ところがリアルタイム会議に関しては全く異なり、月曜午後、水曜日が突出している。水曜日は学生による定例会が開かれていたためであるが、月曜日は授業中の学生の“おしゃべり”が原因である。

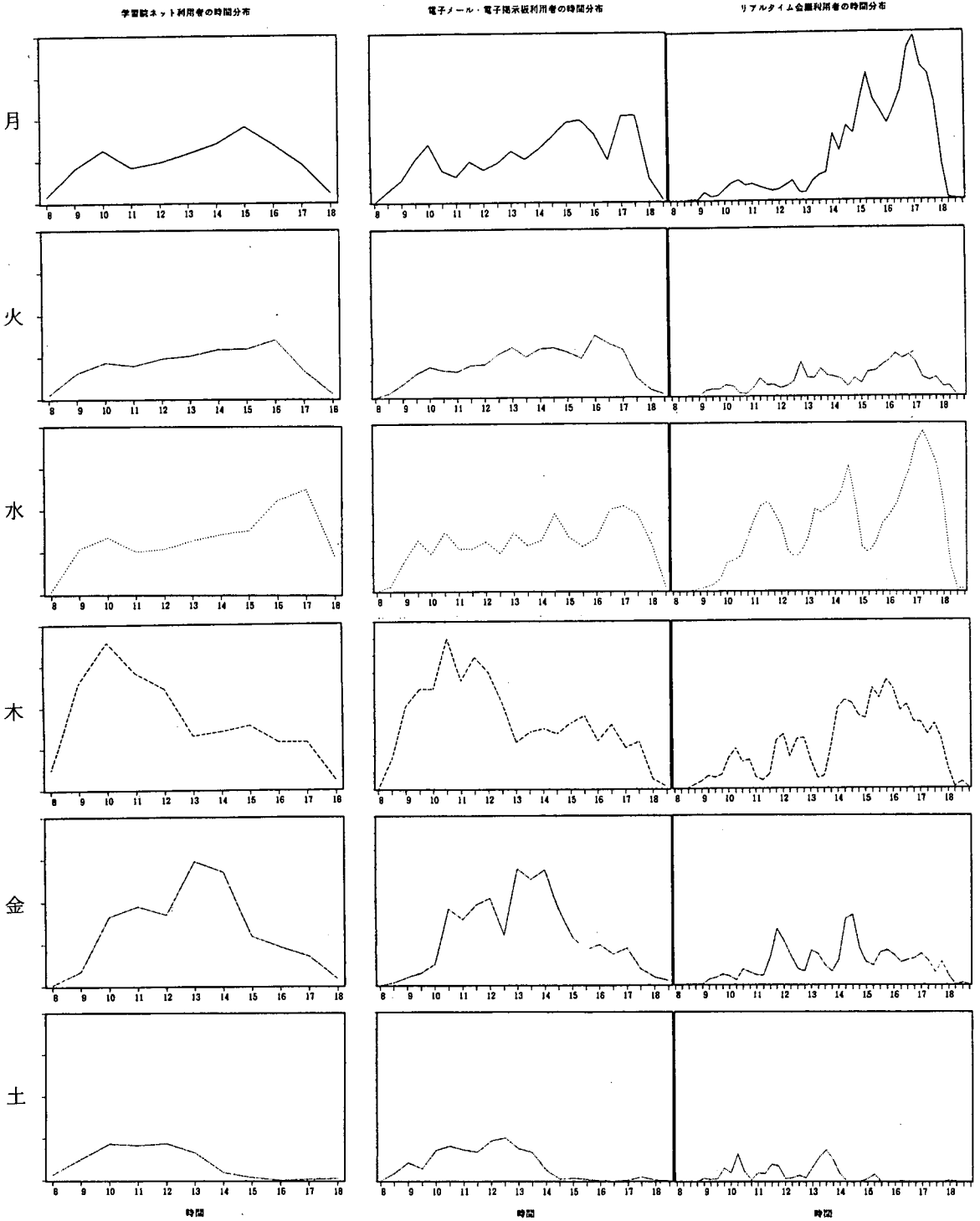


図 4 学習院 ネット利用者の時間分布 (縦軸は頻度を表す)

次に学習院ネットの各々の機能について考察してみる。

電子メール

学習院ネットが学内専用であるという性格からか、利用者は徐々に減少していった。しかし、フロッピーディスクを忘れたときに、自分に対してメールを送ることによりデータを保存するといった実用的な使い方をする学生もいた。

リアルタイム会議

予想以上に利用されていた。授業中の“おしゃべり”は当然のことながら、水曜午後には毎週特定の人々による定例会が開かれていた。彼らはこれを縁に知り合い、そして定例会を開き、休みの日には皆で遊びに行くサークルに発展した。

電子掲示板

多くの人々に利用された。一部を紹介すると、コンピュータに関する質問、学内で開発されたフリーソフトウェアといった真面目なものから、クラブの勧誘、さらにはレポートの解答まで多種多様のものがアップロードされた。

学習院ネットを運用してみる

まず第一に驚くことは、予想以上に利用されたということである。多くの学生が興味をもち、これが縁で友達ができたり、リアルタイム会議をするためだけに大学にくる学生もいた。今までは研究活動の場（一般学生にとってはレポート作りの場）であった計算機センターが、憩いの場と化した。

目的のひとつであった情報処理教育の導入部としての役割は十分に果たせたと思う。また、情報伝達の道具としても、全ての学生が使える唯一の電子媒体による情報伝達の道具として確固たる地位を築いた。そして授業においても教員と学生間の情報伝達の道具として利用された。

今後の課題としては、一般のパソコン通信と同じように電話回線からも利用できるようにする予定であり、現在準備中である。また、他のメールシステム（BITNET）との統合をはかり、より使いやすい環境を提供するつもりである。そして将来必ずや訪れるであろうキャンパスのインテリジェント化の際の基礎となることを願ってやまない。